

空飛ぶクルマ ポート運営の事業化検討について

2026年3月

オリックス株式会社

法人営業本部 国内事業推進部

モビリティイノベーションチーム

オリックスの取り組みと実績

空飛ぶクルマのポート運営の事業化に向けた取り組み 1/2

- 2018年から事業化に向けた検討を開始。国や自治体が主催する官民協議会へ参加し、各種の実証実験を実施
- 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）から「空飛ぶクルマの離着陸場オペレーション手法の確立」の研究開発を受託



空飛ぶクルマのポート運営の事業化に向けた取り組み 2/2

- 大阪・関西万博では万博会場内のポート運営に協賛し、半年間のポート運営を実施
- 直近では、大阪府の調査事業や東京都の実装プロジェクトを受託し、空飛ぶクルマの社会実装に向けた取り組みに着手

2023-25年 官民協議会へ参加

次世代モビリティひょうご会議 (兵庫県)
空飛ぶクルマに関する香川版官民協議会 (香川県)
「空の移動革命」実現に向けた推進ネットワーク (愛媛県)
みえ空モビリティ地域実装研究会 (三重県)
東京ベイeSGパートナー (東京都)
空と道がつながる愛知モデル2030ネットワークメンバー (愛知県)
信州次世代空モビリティ活用推進協議会 (長野県)
やまなし空の移動革命・社会実装推進ネットワーク (山梨県)
奈良県次世代航空モビリティ活用推進検討会議 (奈良県)

2023

2023年 大阪府実証実験

地上ポートにおける旅客取扱施設
旅客動線の調査

2024年 大阪府・大阪市・兵庫県実証実験

空飛ぶクルマ関西フォーラム、他

2025

2025年 大阪・関西万博 ポート運営

未来社会ショーケース事業 モビリティエクスペリエンス
空飛ぶクルマ ポート運営協賛 (4/13~10/13)

2025年 東京都実装プロジェクト

空飛ぶクルマ実装プロジェクト (I期)
(東京における商用運航の実現に向けた検討・実証・実装)

2025年 大阪府調査事業、兵庫県実証実験

空飛ぶクルマ観光魅力促進調査事業
(需要や価格弾力性等に係る調査)
空飛ぶクルマイベント、他



EXPO
Vertiport

2025年大阪・関西万博におけるデモフライト

- 空飛ぶクルマは、国内外の複数の事業者による合計81回のデモフライトを実施。
- 来場者に実施したアンケートでは、静音性への驚きや、実用化への期待の声が聞かれた。

空飛ぶクルマ



(SkyDriveデモフライト)



(丸紅デモフライト)



(ANA/Joby Aviationデモフライト)



(Soracle展示)



(EXPO Vertiport)



(空飛ぶクルマステーション)

<デモフライト実績>

- 丸紅 (HEXA) : 4月、7月 (合計29フライト)
- SkyDrive (SD-05) : 7月~8月 (合計17フライト)
- ANA/Joby Aviation (Joby S4) : 9月~10月 (合計35フライト)

Source : 経済産業省ウェブサイト

https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/results_verification/pdf/001_04_00.pdf

今年度実施している主な取り組み

- NEDO・大阪府・東京都から、研究開発や調査事業を受託

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）
次世代空モビリティの社会実装に向けた実現プロジェクト（ReAMo）



事業年度：2022～2026年度

メンバー：日本電気（代表）、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）、
KDDI、NTTデータ、Intent Exchange、日本航空、オリックス



大阪府
空飛ぶクルマ観光魅力促進調査事業



事業年度：2025年度

メンバー：オリックス（代表）、日本航空、ソラクル、AirX、JTB



東京都
空飛ぶクルマ実装プロジェクト（1期）



事業年度：2025～2027年度

メンバー：日本航空（代表）、オリックス、京王電鉄、ソラクル、住友商事、日本電気
日本空港ビルディング、大成建設、日本空港コンサルタンツ



ReAMoが目指す将来像

実施項目A

「運航管理システム・衝突回避技術の開発」

既存航空機、ドローン、空飛ぶクルマの間で情報を共有し、運航調整を行う運航管理システムの開発・検証

実施項目B

「エコシステム構築に向けたオペレーション検証」

実機を用いたオペレーション検証による
運航手法の確立および知見の蓄積

実施項目C

「自動・自律飛行、高密度化に向けた技術開発」

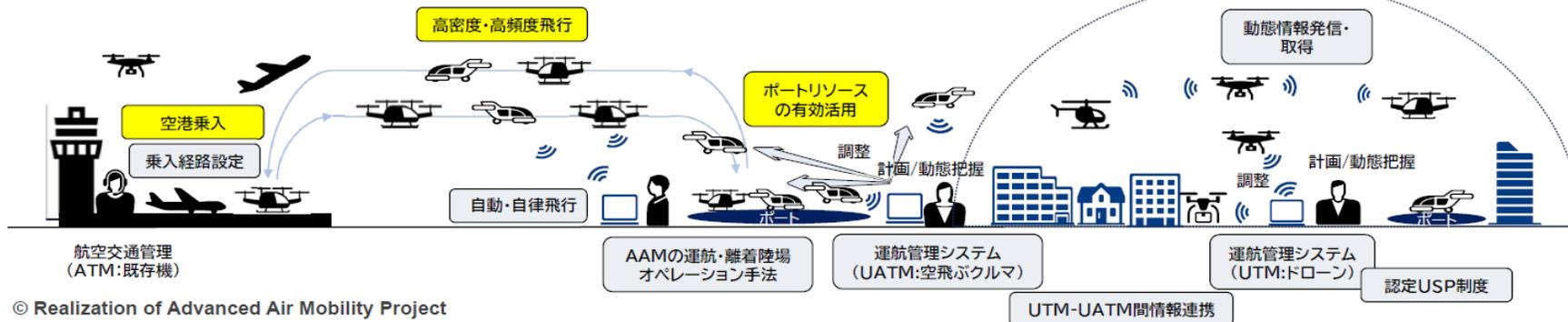
高密度・高頻度化を達成するための、
自動化・無人化に向けた運航管理技術の開発

低高度空域の運用概念図

- 目的
- 目的達成に向けたシステム・機能

「**目指す将来像**」
低高度空域の既存航空機、ドローン、
空飛ぶクルマによる**安全かつ効率的な共存**

効率的な空域利用 安全(セパレーション)確保

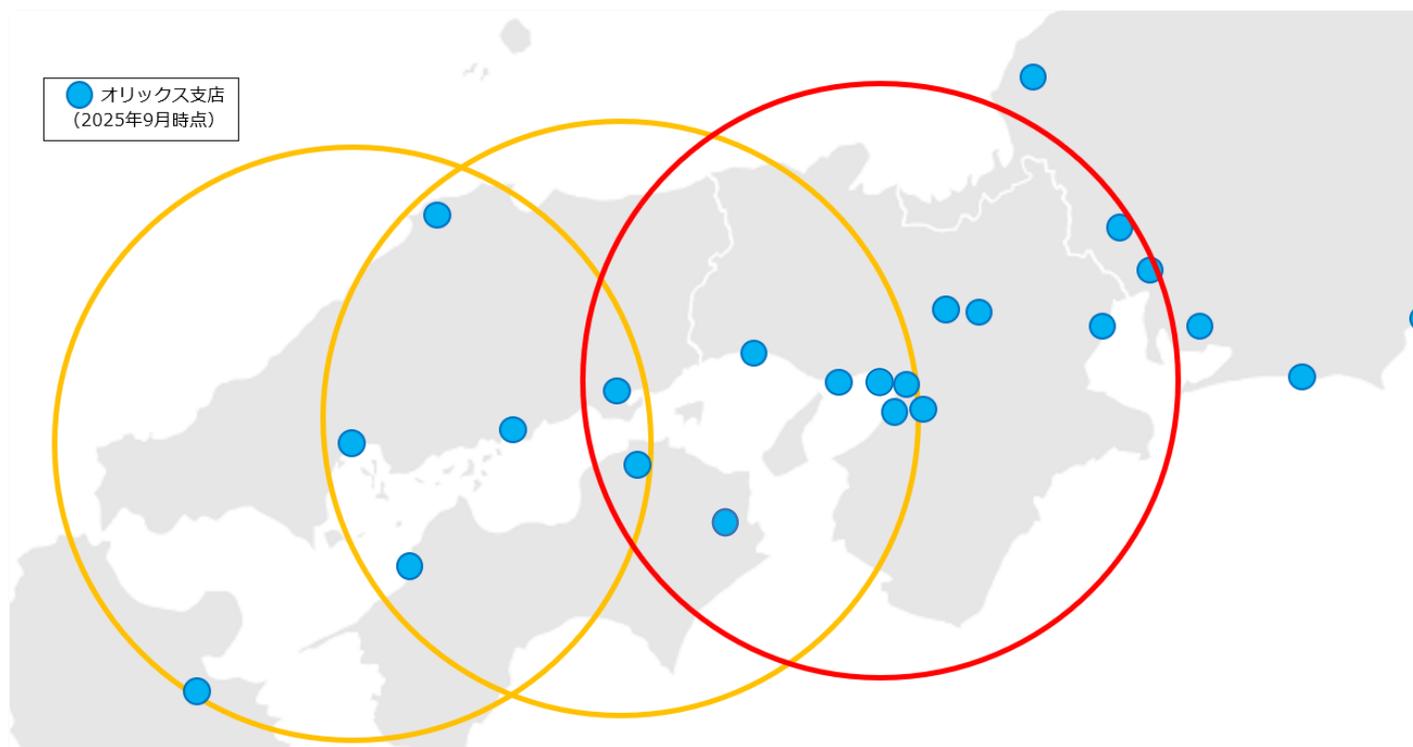


© Realization of Advanced Air Mobility Project

Source : 新エネルギー・産業技術総合開発機構ReAMoプロジェクトシンポジウム2025資料
https://reamo.nedo.go.jp/introduction/introduction_1_2_1_2_2#a103

事業化に向けた方針

- 万博協賛などの取り組みを通して得られた貴重な経験・知見、ネットワークやプレゼンスを活用して、関西・瀬戸内エリアでのポート運営の事業化を推進
 - ✓ 大阪を中心とする関西・瀬戸内エリア（半径約160km = 空飛ぶクルマの航続距離）での事業開始を想定
 - 大阪府は関西圏の中心として、瀬戸内方面（黄色円内）への展開における起点となると想定
 - ✓ 近畿や中国・四国の当社各支店と連携し、各地域のさまざまなパートナーと協業し広域展開する構想
 - 地元自治体、地元企業とも緊密に連携を図る



オリックス株式会社
法人営業本部 国内事業推進部
モビリティイノベーションチーム

〒105-5135
東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル南館

- 本書に記載された意見は、本書作成時におけるオリックスの見解であり、今後通知なく変更されることがあります。
- 本書を使用することにより生ずる直接または間接のいかなる種類の損失に対しても、オリックスならびにオリックスの役職員は責任を負いかねます。